

ノ營業費用百三十万二千留ヲ控除スル時ハ茲ニ百五十一万九千留ノ数字ヲ得ヘク右数字ハ東清鐵道会社ノ所有トシテ残ルヘキ部分ノ露国鐵道收入中毎年ノ減少額ヲ表示スルモノナリ而シテ該金額ヲ利率五分ヲ以テ還元スルトキハ東清鐵道損失ノ賠償トシテ上掲セル三千万留ヲ得ヘシ、尚讓渡スヘキ線路ノ收入總額ハ東清鐵道会社ノ計算ニヨレハ一年二百万留ナリトス

一層詳細ナル見積書露都ヨリ露国大使館宛郵送セラレタリ

千九百十六年十二月^五十八日東京ニ於テ

(附記)

東支鐵道讓渡ニ関スル評価

(大正五年十二月十二日附滿鐵調書)

寬城子ト第二松花江南岸トノ間(六十六哩六)

- 一、建設ニ要セシ費額認定
六百九十万七千円 一哩宛十万三千七百円
- 二、我國ニテ当今建設スルモノトシテノ予算
八百九万五千円 一哩宛十二万一千五百円
- 三、讓受後直ニ要スル設備改良費ノ予算
四百十九万五千五百五十円

事項四 日英通商航海条約ニ濠洲加入ノ件

附 「ニュー・ジブラント」ノ同条約ヘノ加入勧誘ノ件

一七四 一月二十日 在シドニー清水總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日英通商条約加入方ニ関シ濠洲聯邦首相ト会

見ノ件

附記一 大正四年一月十五日附加藤外務大臣宛在英国井上

大使宛通機密送第二号

濠洲ノ日英通商条約加入ニ関シ懇談方訓令ノ件

二 濠洲ノ重要輸出入品目表

大正四年五月十八日附在シドニー清水總領事發加

藤外務大臣宛機密公第一一号

濠洲ノ日英通商条約加入問題ニ関シ意見稟申ノ件

四 大正四年六月二十二日附在シドニー清水總領事ヨ

リ加藤外務大臣宛機密公第一二号

日英通商条約ニ濠洲加入方勧誘ノ件

五 大正四年十月二十一日附石井外務大臣宛在シドニ

ー清水總領事宛通送第一一号

濠洲ノ日英通商条約加入ニ関スル件

六 大正四年十一月二十日附在シドニー清水總領事發

石井外務大臣宛機密公第二七号

日英通商条約ニ濠洲加入方勧誘ノ件

四 日英通商航海条約ニ濠洲加入ノ件 一七四

四、収益予想

讓受線路ニ於ケル一ケ年間収支見込

一、百十五万一千円 収入見込

一日一哩平均金四十五円八十二銭

内金五十八万一千円 旅客收入

金五十七万円 貨物收入

一金六十三万円 支出見込

一日一哩平均金二十五円

差引金五十二万一千円 純益見込

間接純益

讓受ノ結果社線へ吸収セラルヘキモノニヨル收入増加

見込

一金六十二万二千五百円 社線收入増加見込

一金貳拾貳万四千百円 増加收入ニ対スル支出見込

収支ノ比率三割六分

差引金三十九万八千四百円 純益見込

~~~~~

第四号

七 大正四年十二月二十日附在シドニー清水總領事發

石井外務大臣宛機密公第二八号

日英通商条約ニ濠洲加入方勧誘ノ件

第四号

機密第二八号拙信ニ関シ一月十九日「シドニー」ニ於テ聯邦

首相ニ会見シ其意向ヲ尋ネタルニ通商航海関稅等ニ関スル

条約ハ戰後ニ於テ一大革新ヲ要スヘク之ニ関シテハ主トシ

テ英國政府ノ意見ニ依ルヘキ次第ナルモ右ノ意見ハ戰爭ノ

成績如何ニ依リ定ムルノ外ナク未タ考料スヘキ時機ニ達セ

サルヲ以テ日本ニ對シテモ暫ク其商議ヲ見合セタシ尤モ倫

敦着ノ上英國政府ヨリ交渉ノ次第モアラハ其節審議ヲ尽ス

ヘシト答ヘラレタリ就テハ同官ノ倫敦着ヲ俟テ英國政府ヨ

リ勧誘セシムルノ外ナシ同官ハ一月廿一日 Adelaide 解

纜 Osterley ニテ渡英ノ答

(附記一)

大正四年一月十五日附加藤外務大臣宛在英国井上大使宛通機密

送第二号

濠洲ノ日英通商条約加入ニ関シ懇談方訓令ノ件  
通機密送第二号

濠洲ト本邦トノ通商關係ハ累年密接ヲ加ヘ殊ニ今回歐洲戰  
乱開始後ノ經過ニ徴スルモ今後一層顯著ナル発達ヲ見ルヘ  
キ必然ノ勢ト被認候然ルニ兩者間ニハ不幸ニシテ未タ条約  
關係成立セシ事ナク(日英旧条約ニ一時クインスランド州  
カ加入シ居タル事實ヲ除キ)彼我貿易ノ發展上不利不尠候  
ニ付キ兩國ノ通商關係一層増進ノ為メ同殖民地ヲ日英通商  
航海条約ニ加入セシムル事極メテ必要ノ義ト思料致候処右  
ニ関シ濠洲側ニ於テハ或ハ移民問題ニ関連シ之カ応諾ヲ躊  
躇スルヤノ懸念モ有之候ヘ共帝國政府カ濠洲ニ移民ヲ送ラ  
ザルハ多年採リ来リタル方針ニシテ仮令条約關係成立スル  
モ右方針ヲ變更スルノ意思毫モ無之ハ確言スルヲ憚ラザル  
処ナルノミナラズ若シ先方ニ於テ希望スルニ於テハ米國及

加奈陀ノ場合ニ準シ濠洲政府ニ對シ移民問題ニ就キ相当ノ  
保証ヲ与フルモ差支無之是等詳細ノ事項ニ亘リテハ更ニ協  
議ヲ尽スベク候条此際濠洲政府ヲシテ日英締盟ノ諒ト時局  
ニ関スル兩國特殊ノ親善ニ鑑ミ日濠間通商發展ノ為メ該条  
約ニ加入ノ決意ヲナサシムル様特ニ貴任國政府ノ好意的幹  
旋ヲ希望スル旨其筋ヘ申入レ篤ト懇談ヲ遂ケラレ候様致度  
此段及訓令候也

追テ日英通商航海条約第二十六条ノ規定ニヨリ濠洲ヲ加  
入セシムルハ已ニ時期ヲ失シタル義ニ付本文加入ト称ス  
ルハ該条ノ規定ニ依ラズ新ニ日英兩國間ノ協定ニヨリ加  
入スルノ意ニ有之候

尚ホ凡ソ日濠間ニ条約關係ヲ設定シ得ヘシトセハ其機會  
ハ正シク今日ナルヘシト相信シ候間此好機ヲ逸セズ本邦  
多年ノ宿望貫徹候様十分努力セラレ度特ニ申添候

(附記二)

濠洲ノ重要輸出入品目表

(甲) 濠洲ヘノ重要輸出品目

| 品名    | 明治四十四年     | 大正元年       | 同二年        | 同三年<br>至十一月<br>累計 |
|-------|------------|------------|------------|-------------------|
| 羽二重   | 二、四九四、一三三円 | 二、一四二、七五六円 | 一、九五八、八九七円 | 三、〇三三、三四七円        |
| 人造肥   | 八六一、六四二    | 六六六、九二八    | 二九一、四七七    | (不詳)              |
| 硫黄    | 三四七、六九〇    | 四三〇、九二六    | 八五五、九一二    | 五二八、二六七           |
| 木材及板  | 四七三、六八六    | 四六四、九九三    | 四九四、七〇八    | 三四六、〇五八           |
| 綿縮    | 一六六、一五二    | 三七五、七八六    | 五二七、八〇六    | (不詳)              |
| 貝鈕    | 一〇九、三二四    | 五一八、〇九八    | 一四三、九三五    | (不詳)              |
| 魚油及鯨油 | 一八八、一〇九    | 二四五、一一一    | 一七三、五四六    | 一六七、二六一           |
| 絹製手巾  | 二二〇、八七四    | 一六七、三三五    | 一五九、〇八七    | 一三一、九九〇           |
| 陶磁器   | 二〇三、五五四    | 一八五、〇六六    | 一五四、〇一五    | 一二九、二〇七           |
| タオル   | 一二八、四四三    | 一四八、四二八    | 一九二、二七七    | 一七〇、七五三           |
| 其他    | 二、九〇八、九一八  | 三、二八三、五〇七  | 三、六八六、三一四  | 四、四一八、五七〇         |
| 總輸出額  | 八、一〇二、五二五円 | 八、六二八、九三四円 | 八、六三七、九七四円 | 八、九二五、四五三円        |

(乙) 濠洲ヨリノ重要輸入品目

| 品名   | 明治四十四年    | 大正元年       | 同二年        | 同三年<br>自十月累計 |
|------|-----------|------------|------------|--------------|
| 羊毛   | 四、〇二三、五六七 | 七、九〇八、九七三  | 七、九九四、八六九  | 六、二八三、五五八    |
| 鉛    | 一、八三五、〇五七 | 二、八〇四、九九一  | 二、四二九、一〇四  | 一、八六八、八三五    |
| 小麦   | 二二二、二五七   | 二三、六六三     | 二、二〇三、五七九  | 二、三三八、八五五    |
| 獸脂   | 四六一、八七八   | 七三三、二八四    | 六九六、一一五    | (不詳)         |
| 獸骨   | 九六、五四八    | 一二三、七八五    | 一八二、二二四    | (不詳)         |
| 骨粉   | 八九、〇八九    | 一二一、〇四三    | 一三五、九〇八    | (不詳)         |
| オレイン | 七四、九二五    | 一二七、九一四    | 一二七、五六九    | (不詳)         |
| 牛皮   | 一五一、六七六   | 一一三、七三七    | 一六、六六七     | (不詳)         |
| 血粉   | 九一、二六九    | 四二、三四二     | 六四、二三五     | (不詳)         |
| 其他   | 八九〇、六六一   | 八二二、二五三    | 一、〇九二、八七五  | 一、四三七、六二三    |
| 總輸入額 | 七、九二六、九二七 | 一二、七九一、九八五 | 一四、九四三、一四五 | 一一、九二八、八七一   |

(附記三)

大正四年五月十八日附在シドニー清水総領事発加藤外務大臣宛  
機密公第一一号

濠洲ノ日英通商条約加入問題ニ関シ意見稟申ノ件  
機密公第一一号 (大正四年六月廿一日接受)

大正四年五月拾八日

在シドニー

総領事 清水 精三郎 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ就キ去三月三日附通機密送第三号貴信ヲ以テ御来示  
ノ趣ニ関シ客月十二日附拙電第二十三号ヲ以テ卑見及稟申  
候処同月十四日貴電第十五号ヲ以テ御回訓ノ趣致敬承候濠  
洲ト本邦トノ關係ハ戦乱以來通商上顯著ナル發展ヲナシツ  
ツアルハ勿論当国人ノ対日感情モ俄然一変シ帝國ニ対シ敬  
信ノ誠意ヲ表シ来リタルコトハ時々ノ情報ニ記述致候次第  
ニ有之候此際本問題ヲ提起セラレ候義ハ最時機ヲ得タル御  
措置ト被存候

然ルニ前頭拙電第二十五号ニテ概要電稟ノ通り日英通商航  
海条約第一条ニ列記セル相互ノ臣民ニ対スル旅行、居住ノ  
自由及商業、製造業、産業、生業、職業、修学研究ニ関スル  
諸權利ノ保障中ニハ当連邦ノ移民法其他白人濠洲人主義ニ  
拠リ制定セラレタル法令若シクハ「クインスランド」州砂  
糖栽培法、真珠貝及海鼠漁獲法及外国人土地賃貸制限法採

ト其主義上ニ於テ柄鑿相容レザルモノ可有之ト被存候尤モ  
帝國政府ニ於テハ仮令条約關係成立スルモ移民ヲ濠洲ニ送  
ラザル從來ノ方針ハ毫モ變更スルノ意思ナク米國及加奈陀  
ノ場合ニ準シ濠洲政府ニ対シ移民問題ニ就キ相当ノ保障ヲ  
与フルモ差支無之御趣意ナル趣ニ就テハ先方ニ於テモ此点  
ニ関シ大ニ安堵可致義ト被存候得共本件交渉ニ際シ移民法  
施行上變更ヲ希望スヘキ諸点其他当國ノ法律中日英条約ノ  
規定ト衝突スヘキ事項御参考迄ニ左ニ列記可致候

(一) 現行日濠協定ニ依レハ本邦人ノ商人、学生及旅行者ノ濠  
洲ニ入國滞在セントスルモノハ移民法ニ定ムル書取試験  
ヲ受クルコトナク帝國政府ノ発給セル旅券ノ提示ニ依リ  
入國ノ上十二ヶ月間ノ滞在ヲ許サレ其延長ヲ望ムモノハ  
更ニ十二ヶ月毎ニ許可ヲ更新セザルベカラズ、而シテ、  
在留日本人ノ家族呼寄ニ就キ先例ニ按スルニ商人、学生  
及旅行者ノ妻ハ夫ト連記ノ旅券ヲ以テ同行シ来ル者ハ入  
國並ニ滞在ニ関シ夫ト同一ノ取扱ヲ受ケ、夫ニ後レテ単  
独ニ入國セントスルモノハ別ニ予メ許可ヲ受クルヲ要シ  
其許可ヲ得ルコトハ容易ナラザレドモ許可ヲ受ケタルモ  
ノハ滞在ニ関シテハ夫ト同一ノ取扱ヲ受ク、又永住權者

ノ家族ハ個々ニ許可ヲ受クルコトヲ要シ滞在期限六ヶ月ヲ最長期トシ其以上ノ滞在ハ特別ノ事由ヲ具シテ延長出願ヲ要シ許可ハ一ニ連邦政府ノ裁量ニ属セリ如斯遠ク海外ニ永住スルモノニ対シ六ヶ月ヲ限リトシテ其妻ノ滞在ヲ許スガ如キハ往復ノ費用ト煩累トヲ考慮スルトキハ事実ニ於テ呼寄禁止ト相距ルコト遠カラズ故ニ是等ノ諸点ニ就テハ日英条約第一条第一項ノ趣旨ニ則リ労働者以外ノ本邦人ノ入国及滞在並ニ家族呼寄ニ関シテハ絶対ノ自由ヲ保有スルト同時ニ吾移民永住権者モ期間ヲ制限スルコトナクシテ家族ヲ呼寄セ得ル様變更セシメザル可カラス而シテ是等ノ特別許可ニ対スル變更ハ移民法第三条(h)項ノ規定ニ依リ行政権ノ範圍ニ属シ敢テ法律ノ改正ヲ要セザルモ右等ノ規定ヲ当洲ト外国政府トノ間ニ取極メ定則ト為サントスル場合ニ於テハ同法第四条Aノ(1)及(2)ニ拠リ議會ノ協賛ヲ經ルノ必要アルモノトス

(二)次ニ起ルヘキ問題ハ連邦政府千九百七年法律第拾貳号産業奨励金法ナリトス、本法ノ規定ニ依レハ連邦政府ハ当洲ニ於ケル羊毛、トツプ其他數種ノ貨物ノ生産者又ハ製造者ニ対シ一定ノ期間一定ノ奨励金ヲ交附セントスルニ

シタル者ノ外五「エーカー」以上ノ賃借ヲ禁止シタルモノナリ、右ノ内砂糖栽培法ニ就キ在留本邦人ニ関スル限りハ永住権ノ主張ヲ以テ既ニ解決シ真珠貝及海鼠漁獲法及土地賃貸制限法ハ目下本邦人ニ利害關係極メテ尠キヲ以テ今後新移民ノ来濠ヲ許サザルニ於テハ左シタル不便ヲ生スルコトナカルヘシト雖モ主義上ニ於テ日英条約第一条第三項若シクハ第四項ト衝突スルモノト認メラルルガ州議會ヲシテ之ヲ改正セムルノ難儀ナルハ猶連邦議會ノ奨励金法改正ニ対スル困難ト敢テ軒輊スル所ナカルヘシ是亦篤ト御詮議ヲ乞フ

要之、白人濠洲主義ニ対シテハ当国内少數ノ達識者間ニ於テ(殊ニ印度ヨリ歐洲出兵及帝國ノ戰爭参加以來)異論ヲ有スルモノ少カラザレドモ近来当国政界ノ優勢者タル労働党ノ主力ナル労働組合ニ至リテハ痼疾深ク膏肓ニ入リテ未タ毫モ悔悟ノ兆ヲ表ハスニ至ラス、達識ノ士モ其大勢ヲ動カスコトノ至難ナルヲ認メ拱手只時勢ノ變遷ヲ俟ツノ有様ナレハ当局者ニ於テモ此問題ニ就テハ極メテ怯懦ナル態度ニ出ツルヲ常例トスレバ到底其勇斷ヲ望ミ難キヲ恐ル、然レトモ折角ノ好機ニ乗ジ濠洲ト条約関

アルモ其交附ノ要件トシテ白人労働者ニ依リ生産又ハ漁獲セラレタル貨物ニ限ルヲ以テ日英条約第一条第八項ノ規定ト相容レザルヘシ(附屬第一号奨励金法第三条及第四条看)由來本法制定ノ目的ハ当洲ニ於ケル新規又ハ幼稚ナル産業ヲ保護スルヲ主眼トスルモ同時ニ白人濠洲主義ノ貫徹ヲ期スルニアルヲ以テ之ヲ改正シテ日英条約ニ調和セシムルコトハ目下当国ノ政界ノ現状ヨリ判スレハ至難ノ事ニシテ帝國政府ニ於テ固ク之ヲ主張スルニ於テハ談判進行上ノ障碍タルヘキ虞アリ、就テハ本邦人ニシテ目下這般ノ事業ニ従事スルモノナク又近キ将来ニ於テモ之アルヘシトモ思惟セラレザル事情ニ顧ミ此辺ノ斟酌ハ適當ニ御裁決相成方可然乎ト存候、篤ト御詮議ヲ仰ク

(三)「クインスランド」州砂糖栽培法(客年五月四日附公第五十一号拙信詳報)及同州真珠貝及海鼠漁獲法(附屬書第二号)ハ法文上何等人種的ノ區別ヲナス所ナキモ其施行規定ニ於テ從業者ニ書取試験ヲ課シ事実上有色人ノ就業ヲ排斥スルモノニシテ又同州千九百十二年外國人土地賃貸制限法(附屬書第三号)ハ第三条中書取試験ニ及第

係ヲ成立セシムルニ臨ミ前記市民權ノ重要ナルモノニ就キ多大ノ除外例ヲ設クルハ極メテ遺憾事タルヲ以テ是等諸問題ノ解決ニ関シテハ英本國政府ノ好意的斡旋ヲ待ツノ外手段ナカルヘキカ

(四)次ニ本件ニ関シ通商上最も重要ニシテ交渉上至難ナルハ日英条約第八条所定ノ関稅協定ナリトス、濠洲關稅率法ハ英國ノ產物或ハ製造物ニ限り一定ノ條件ノ下ニ特惠關稅ヲ許スノミニシテ之ヲ加奈陀、新西蘭ノ如キ姉妹領域ニ及ボサントハ年來ノ宿望ナルモ是サヘ未タ成立ニ至ラス、其他ノ諸國トハ勿論何等ノ協定稅率ヲ有セザルヲ以テ今一國トノ稅率ヲ協定スルコトハ即チ其他ノ諸國トノ協定ヲ促進スル端緒ヲ開キ遂ニ本洲本來ノ國定稅率ニ根本的變更ヲ来ス恐アルカ故ニ協定ノ開談容易ノ業ニ非ズ、然レトモ頃日当地新聞紙上ニ散見スル所ニ依レハ目下關稅改正ノ好機ヲ利用シ独逸兩國ニハ平和克復後ニ於テ追加稅率ヲ課シ同盟國ニハ低率關稅ヲ課セントノ運動ヲ生シ又過日濠洲産業保護協會代表者ニ対シ關稅大臣ハ新關稅ハ濠洲ノ製造業ノ保護ヲ主眼トシ英國ニハ特惠關稅ヲ許シ其他ノ諸國ト特ニ貿易關係ヲ密接ナラシムルニ

ハ互惠のニ関税ヲ協定スルノ外ナシトノ意ヲ洩シタル由  
伝ヘラル、若シ此言ニシテ真ナリトセハ関税協定ノ一事  
未ダ必ズシモ絶望ナリト即断スベカラズ、サレド今飜ッ  
テ日濠間ノ貿易状況ヲ見ルニ日本ヨリノ輸入品ハ絹織  
物、硫黄、衣服類、木材、家具用織物雑品、油、綿及  
「リネン」反物、過燐酸肥料、帽子用品、袋靴類、衣服  
附屬品、「ブラツシュ」類、家具、小間物、柳枝竹細工  
及杖等（千九百十三年度ニ於ケル輸入金額順）ヲ重ナル  
モノトシ其他凡百ノ低廉ナル雜貨ニ涉リ当地ノ市場ニ在  
リテモ他国産ト競争ノ地位ニ立ツモノ多キニ反シ濠洲ヨ  
リ日本ヘノ輸出品ハ羊毛、鉛、小麦、獸脂、肥料、獸  
骨、錫板等（千九百十三年度輸出金額順）多クハ纏リタル  
貨物ニシテ製造原料ニ屬スルモノ多ク市場ニ在リテモ殆  
ント独占ノ性質ヲ有スルモノナキニ非ズ且ツ日本品ニ對  
スル濠洲ノ関税率ハ右ノ諸品中硫黄及過燐酸肥料ノミ無  
税ニシテ絹織物ハ二割（從価從量兩率ヲ併有スルモノハ  
便宜從価率ノミヲ掲ク以下準ス）衣服類ハ一割五分乃至  
四割五分（衣服附屬雜品以無税ノモノアリ）木材ハ五分家  
具用織物雜品ハ二割五分乃至三割、油ハ一「ガロン」ニ

（附 記四）

大正四年六月二十二日附在シドニー清水總領事發加藤外務大臣  
宛機密公第一二二號

日英通商条約ニ濠洲加入方勧誘ノ件

機密公第一二二號

（大正四年七月二十二日接受）

大正四年六月二十二日

在シドニー

總領事 清水 精三郎（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

我練習艦隊メルボルン寄港ニ付其機會ニ乗シ日濠交歓運動  
旁同市出張方申請候処右序ヲ以テ前掲条約加入勧誘方努力  
可致旨去五月十五日貴電第十九號ヲ以テ御訓令ノ趣敬承依  
テ林書記生随伴本月九日発同地出張二十日帰任致候出張中  
本件ニ関シ当路者ト会谈ノ要領ハ本月廿一日拙電第三十三  
号ヲ以テ及稟報候得共右ニ関スル詳細ニ及具申候  
メルボルン市着ノ当日予ネテノ打合ニ依リ首相フキシャー  
氏ニ会见先ツ本件ニ関シ濠洲政府ハ英國政府ヨリ公文ヲ受  
領セラレタルナルヘク右詮議ノ模様内閣致度旨申出候処首  
相ハ兎角言ヲ左右ニ托シ胸襟ヲ開ク模様ナキニ付本官ハ帝

付一片乃至二志六片、綿及「リネン」反物ハ五分、帽子  
用品ハ四割、袋靴類及「ブラツシュ」類ハ三割五分、家  
具ハ四割五分、小間物ハ三割、柳枝竹細工及杖類ハ四割  
乃至四割五分等多クハ高率ナルニ反シ濠洲品ニ對スル本  
邦関税率ハ羊毛、肥料、獸骨ハ無税ニシテ小麦ハ百斤ニ  
付七拾七錢、鉛ハ百斤ニ付四拾錢、獸脂（牛又ハ羊）ハ  
百斤ニ付八拾錢、錫板ハ無税乃至二割ナルカ故ニ関税ノ  
互惠協定ヲ為スニ於テ本邦ニ取リ不使少カラザルヲ以テ  
若シ交渉ノ結果止ムヲ得ズンハ加奈陀ノ例ニ於ケルカ如  
ク関税協定ハ除外スルノ外ナカルベキ歟

別紙附屬書類相添右卑見及稟申候 敬具

本信亨送付先 在英井上大使

附屬書類

第一号 千九百十七年連邦產業獎勵金法及千九百十二年改

正法

第二号 「クインスランド」州真珠貝及海鼠漁業法及施

行細則

第三号 同州外國人土地賃貸制限法

註 右附屬書類省略

国政府ノ命ニ依リ貴政府ト本件ニ関シ内議スヘキ光榮ヲ有  
スル旨ヲ述ヘ第一日濠間ニハ通商航海ノ条約ナキニ因リ特  
ニ日濠間ニ適スヘキ商業製造業船舶業等ニ関シ将来遠大ノ  
計画ヲ立テントスルモ兩國間相互ノ待遇ニ就キ何等ノ保障  
ナク安心シテ其ノ基礎ヲ定メ難ク之レカ為メ通商ノ發展ヲ  
阻礙スルノ虞アルコト及目下当国ノ輿論ナル敵国通商ノ禁  
絶殊ニ独逸品消費ヲ根絶セントスルノ運動ヲシテ戦後ニ繼  
続セシメ独逸民族ノ經濟的復活ヲ防止セント欲セハ我国ト  
通商關係密接ノ基礎ヲ立ツルコト目下ノ急務ナルコト等ヲ  
詳説シ次ニ（一）日英同盟ノ規約及其精神ノ完全ナル調和的且  
鴻益的ノ活動——特ニ目下ノ大戦乱ニ於ケル活動——ハ日  
英兩國各自及相互ノ利権維持及増進ノ為メ將又東亞及太平  
洋ノ平和維持ノ為メ無量ノ偉功アルコトヲ証明シタルコト  
（二）帝國ノ誠意ニ関シ曾テ濠洲ノ或方面ニ於テ懷抱セラレタ  
ル疑雲ハ事實上ノ証明ニヨリ幸ニ霧消シタルコト（三）此際ニ  
当リ苟モ日英同盟ヲ鞏固ナラシム可キ手段アラハ其手段ヲ  
尽スニ遺算ナカラシムヘキコトハ兩帝国内政治家タルモノ  
ノ責務ナル可キコト（四）此際濠洲ノ条約加入ノ挙ハ兩國間ニ  
現存セル友誼親交ヲ一層鞏固ナラシムルコトニ貢獻シ同盟

ノ鎖鑰ヲ強ムルノ効果偉大ナルヘキコト等ヲ骨子トシ敷演陳弁シタル処首相ハ篤ト傾聴シタル上「貴説ノ趣ハ逐一本官ノ異議ナキ所ナルニ付篤ト考慮ヲ加フヘシ」云々ト答ヘラレ候其翌日ハ総督ヲ訪ヒ前記同様ノ勸説ヲ試ミタルニ始終傾聴シタリシカ連邦政府カ領事官ト是等ノ事件ヲ交渉シ得ヘキヤ否ト疑ハルル様子ニ付本官ハ条約参加ニ関シ加奈陀政府ト我総領事トノ交渉及日本人渡濠ニ関スル件ニ付当連邦政府ト我総領事トノ交渉等ノ先例ヲ挙ケ此点ニ疑ナカル可キ旨ヲ説明致置候畢現任総督ハ就職尚ホ日浅ク右等ノ事例ニ遭遇シタルコトナキ為メ憲法正規ノ手續ニ依ルノ外ナシト思惟セラレタルモノト被存候

次キニ日時ヲ約シ外務大臣マホン氏ニ会见シ同様ノ勸説ヲ試ミタルニ同氏ハ最モ熱心ニ意見ヲ交換シ本件ハ頗ル重要ナル問題ナレトモ目下軍事ニ関連セル要務及対議會ノ政務等ニ昼夜忙殺セラレ寸暇ヲ得ズ遺憾ナカラ本件ヲ考量スルニ至ラザレドモ必ラズ可成速カナル機会ニ於テ「フェヴォラブル、コンシダレーション」ヲ加フヘシト明言セラレ候尋イテ本官ハ總督ニ会见ノ節同官ノ陳述セラレタル前述憲法上ノ手續問題ニ言及致候処「ソハ何等配慮ニ及バズ自治

ルコトモナク又望ミタルコトモナシ今回ノ加入勸誘ハ全ク新奇ナルニ依リ一層審慮ヲ要スルナルヘシ云々」トノ事ニ有之候依テ本官ハ御訓令ニ基キ最モ婉曲ニ前記(二)ノ困難ハ条約加入上何トカ回避ノ途アルヘキ旨ヲ諷示致置候

又我練習艦隊ハ本月十四日メルボルン入港、十九日「ホバート」ニ向ケ解纜致候処在港中連邦總督ヴィクトリア州知事、連邦及州兩政府、メルボルン市長市民等ヨリ何レモ熱誠ノ歡迎ヲ受ケ艦隊側ニテモ午餐會及「アート・ホーム」等ヲ催シテ之ニ酬イ本官モ一タ晚餐會ヲ催シテ司令官兩艦長及士官諸氏ト共ニ政府ノ高官市内ノ名士等ヲ招待シタル等握手交歓ノ機會多ク本件ノ交渉上多大ノ便宜ヲ得タルコトハ大要既電ノ通りニ有之候

右及稟報候 敬具

本信写送付先 在英井上大使

(附 記五)

大正四年十月二十一日附石井外務大臣発在シドニー清水総領事宛通送第一二号

濠洲ノ日英通商条約加入ニ関スル件

通送第一一號

の英国領土ニ於テハ形式ハ兎モ角事実上外國政府ト交渉ノ權能ヲ有シ多々先例モ有之殊ニ本件ノ場合ニ於テ差起ルコトアルヘキ実質上ノ諸問題ハ当地ニ於テ貴我兩者ノ間ニ打合スルヲ以テ最モ捷徑且便宜トスルコト勿論ノ義ニテ本官ハ之ヲ希望ス云々」ト申述ヘラレ候

前記ノ次第二テ今回ノ会见ニ於テハ事ノ大体議ニ止マリ細目ニ関シテハ何等言及スルニ立至リ不申候処本官ノ懇意ナル外務次官ハント氏ヨリ内聞スル所ニヨレハ(一)目下議會開會ノ最中政府党タル労働党内ノ急進派ハ内閣ノ穩和ナル施政ニ甘ンゼズ断乎トシテ党ノ施政綱領ヲ実行センコトヲ迫リ党内相軋シリ反對党之ニ乘シテ政府攻撃ニ努メ政爭猛烈ニシテ内閣ハ晝夜目前ノ問題ニ忙ハシク到底他事ヲ顧ミルノ暇ナシ又議會閉會期ノ如キハ未タ見込立タズ(二)日英通商航海条約ノ規定中ニハ当國ノ白人濠洲主義ニ依リ流出セル現行法制ニ扞格スル向少カラサルヘキ恐アリ(三)多年前英國ト諸外國間ニ締結セラレタル通商航海条約ニシテ自然濠洲ヲモ拘束シ其条規中當國ノ立法上故障ヲ生シ当方ニハ何等恩惠ナキモノ少カラズ依テ濠洲政府ハ是等ノ拘束ヨリ離脱スルコトコソ勉メタルモ新通商航海条約ニ加入ヲ望マレタ

本件ニ関シ六月廿二日附機密公第一二二号ヲ以テ縷々御稟報ノ趣閱悉本件ハ表面英國政府トノ交渉ニ候ヘ共主トシテ濠洲政府ノ意向如何ニヨリ決スヘキ義ト存候ニ付現下ノ好機ヲ利用シ濠洲政府ヲシテ成ルヘク速ニ我ニ有利ナル解決ヲ与ヘシムル様適當ノ方法ニヨリ隨時当局ニ勸説セラレ何分ノ御報告相成候様致度此段申進候也

(附 記六)

大正四年十一月二十日附在シドニー清水総領事発石井外務大臣宛機密公第二七号

日英通商条約ニ濠洲加入方勸誘ノ件

機密公第二七号

(大正四年十二月二十日接受)

大正四年十一月二十日

在シドニー

總領事 清水・精三郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

本件ニ関シ客月六日附機密公第二二一号ヲ以テ申進置候義有之候処同信中ニ記述セル外務次官ハント氏ハ出張先ヨリ帰任ノ途次客月二十三日当地ニ來着致候ニ付翌二十四日会见致詳細協議ヲ遂ケ且ツ可成速カニ本件ノ目的ヲ貫徹スル様

尽力方内囑致候処幸ヒ甘諾被致越エテ本月十一日連邦政府新首相ヒューズ氏 (William Moria Hughes) ハ英本國政府ヨリ軍國重要事件ニ関シ本國政府ト意見交換ノ為メ渡英スヘキ招致ニ接シ加奈陀及「ニュー・ジールランド」ノ首相モ同シク招致セラルル義ニ付之ヲ受諾シタル旨議會ニテ公表被致且ツ新聞紙上首相ハ来ル一月早々出発可致旨報道致シ又「サー、ジョージ、リード」氏ニ代ハリ倫敦駐在濠洲「ハイ、コムミツショナー」ノ重職ニ就クヘキ前任首相「アンドリュース、フキシャー」氏モ来ル十二月中倫敦ニ向ケ出発ノ密ニテ當國ノ政界右両大立物ノ渡英ハ濠洲条約加入ノ議進行上絶好ノ機會ト被存候ニ付此際當國ノ決心ヲナサシメ度場合ニ依リ本官「メルボルン」ニ出張重ネテ遊説ヲモ試ミ度ト存シ別紙甲号写ノ通り外務次官宛半公信差出置候処今般乙号写ノ通り回答ニ接シ申候右来意ニ依レハ本件ノ決定ハ戦乱終結ノ際迄見合セ度キ當國政府ノ意向 (機密第二一号信参照) ハ外務大臣ニ對スル本官ノ力説ニ拘ハラス未タ動ク所アラザルモノノ如ク察セラレ候尤「ヒュース」氏ハ遠カラス当地出張ノ様子ニ付機會ニ乗シ可及限り面議勸誘可致積リニ有之候別紙写相添右及具申候 敬具

本信写送付先 在英井上大使  
註 別紙甲号及乙号写省略  
(附 記七)

大正四年十二月二十日附在シドニー清水總領事発石井外務大臣宛機密公第二八号

日英通商条約ニ濠洲加入方勸誘ノ件  
機密公第二八号 (大正五年一月二十二日接受)

大正四年十二月廿日

在シドニー

總領事 清水 精三郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

本件ニ関シ連邦首相「ヒュース」氏ハ遠カラズ当地出張ノ様子ニ付機會ニ乗シ可及限り面議勸誘可致積リニ有之候趣ハ客月廿日附機密公第二七号信中記載致置候処首相ハ「クキンスランド」州連邦議員補欠選舉ノ用務ニ関シ同地出張ノ序ヲ以テ本月初旬来當市ヲ出入致居候ニ付予テ会見ヲ申込置本月十四日面会致候本件ニ関シ同氏ニ會談スルハ初メテノ事故先ツ帝國政府ヨリ英國政府ニ開談當時ヨリ説キ起シ夫レヨリ本官カ本年六月以来前任首相外相其他ト數回會談ノ顛末及我方ニ於テ此際可成速カニ本件ノ円満ナル終結

ヲ希望スル理由等ヲ詳説シ目下軍國多端ノ際該官ノ劇忙ナルコトハ深く同情スル所ナレトモ該官倫敦出張中ニハ本件モ必ズ議題ニ上ルヘキコトト信セラルルカ故ニ是非此際考量ヲ遂ケラレ速カニ加入方決定セラルル様翹望ニ堪ヘザル旨力説致候処同氏ハ終始傾聴セラレ貴説ノ趣ハ頗ル重要事件ト思惟セラルルニ依リ篤ト考量ヲ加フヘシト陳ヘラレ何等反對ケ間敷陳述無之候ニ付本官ハ本件ニ関シ御調査中本官ト打合ヲ要セラルル如キ事情ニ際会セラレナハ御一報次第メルボルンニ出張可致旨申述ヘ且ツ同官考量ノ結果ハ英國ニ向ケ出発以前本官ニ通牒スヘキ約束ヲナシ相別レ申候次ニ首相隨行ノ内閣書記官長シツバード氏ハ從來知合ノ間柄ニモ有之候ニ付同氏ニ面会シ前記首相ノ約束ヲ遺忘セラハルカ如キコトナキヲ期スル為メ内々同官ニ依頼スル積ニテ本件ノ大体ヲ内話致候処意外ニモ同官ハ此際本件ヲ商議スルコトハ時機ノ宜シキヲ得タルモノニアラズトノ説ヲ抱キ居候事ヲ發見致シ或ハ首相又ハ外相等カ口外スルヲ好マサル政府ノ内意ヲ探ルノ手掛リニモヤト感知致候ニ付其意見ノ挑発ヲ試ミタルニ其説ノ大要ハ「英帝國ハ今ヤ全力ヲ挙ケテ生死ヲ賭セル大戦争ニ忙殺セラレ居ル真最中ニテ優

々新規ノ通商問題等ヲ考究スヘキ余裕ヲ有セス且ツ此際日本ト通商航海ノ新關係ヲ結フニ於テハ仏露諸國モ同様ノ希望アルヤモ測リ知ルヘカラス如此ハ戦争ノ結果如何ニ依リ全ク徒勞ニ歸スルヤモ図リ難ケレハ是等ノ問題ハ之レヲ戰後ニ譲リ全力ヲ戰勝ノ一事ニ集中スルコト目前ノ急務ナリ」ト云フニアリ依テ本官ハ(一)濠洲人中戦乱以前日本ニ對スル惡感情ノ存在シタルハ世人ノ熟知セラルルコトナルモ帝國力戦争参加ノ結果右ノ感情ヲ一掃シテ敬愛ノ感情湧起シタルノ事實(二)開戦以來日濠貿易ノ大發展及彼我共其永續ノ希望ハ和親及通商ニ関スル条約紐帶ノ創定ヲ要求スル事情等日濠間特種ノ事柄ニ屬シ且ツ帝國ハ濠洲ニ向ツテ既ニ業ニ加奈陀モ参加シタル日英条約ニ加入スルコトヲ希望スル迄ニテ何等特別ノ要求ヲナスニアラス濠洲力之ニ加入スルノ故ヲ以テ仏露諸國力均露ヲ望ミ来ルヘジト云フカ如キハ拙者ノ了解シ難キ所ナリナトト弁駁シ種々意見ヲ交換シタル後同官モ首相ノ約束ハ是非履行セラルル様注意スヘシト申出デラレ候

右及具申候 敬具

本信写送付先 在英井上特命全權大使

一七五 三月二十二日

在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

海峽植民地医師問題並濠洲ノ日英通商条約加  
入ニ関シ英國外相ト会谈ノ件

第九九号

三月二十二日「グレイ」氏ノ請ニ依リ往訪シタルニ同大臣  
ハ往電第九五号海峽植民地医師問題ニ関シ殖民大臣ニ於テ  
中央医事会ト協議ノ末官立及府県立医学専門学校並ニ文部  
大臣指定ノ私立医学専門学校卒業ノ日本医師ノ日本人間開  
業許可ノ措置ニ出ル様 (adoption of measures for  
admission to practice among Japanese) 好都合ニ詮議方  
海峽植民地知事及馬來連邦 High Commissioner ニ対シ勸  
告中ナリ (is recommending) トノ趣旨ノ覚書ヲ本使ニ手  
交シ右ハ未タ完全解決ニハアラサルモ差向キ解決ノ第一歩  
トシテ請取ラレタシト述ヘ尚本使ノ問ニ答ヘ本件地方官憲  
ニ対スル訓令ニ favourable consideration ノ語ヲ用ヒタ  
ル所以ハ本件実行ニハ同殖民地立法会議ノ決議ヲ要スルカ  
タメニ外ナラス議員ノ多数ハ官吏ナルヲ以テ政府ノ希望通  
ノ議決ヲ見ルヘキハ實際上疑ナキ所ナリト説明セラレタリ

シテスラ制限ヲ加ヘ居レリ即チ濠洲ハ自国労働者保護ノ見  
地ヨリ英國商船ト雖濠洲船舶乗組員ト同額ノ賃銀ヲ仕払フ  
モノニアラサレハ沿岸貿易ニ従事スルヲ許ササル次第ナリ  
右ノ次第ニ付濠洲首相ハ日本ト条約關係設定ニ付テハ濠洲  
ニ於テ日本船舶ニ沿岸貿易ヲ許ササルコトニ付日本政府ノ  
得心ヲ得タシトノコトニ付自分ハ外國商船ノ沿岸貿易ハ日  
本ニ於テモ国法上禁止居ル様記憶スルニ付本件首相ノ希望  
ハ無理ナラスト思フモ抑モ所謂沿岸貿易トハ何レノ地域内  
ヲ指サヤト尋ネタルニ目下濠洲ニ於テ占領中ノ独領諸島カ  
戦後濠洲ノ有トナルノ仮定ノ下ニ右区域ハ赤道以南トシタ  
シト云ヘルニ付自分ハ左スレハ日本モ亦同様ノ仮定ノ下ニ  
赤道以北ノ日本各港ノ沿岸貿易ヲ濠洲船舶ニ対シ禁止ヲ欲  
スルヤモ計リ難シト述ヘタルニ首相ハ夫ハ素ヨリ致シ方ナ  
シト答ヘタリト

(三)関税ニ関シテハ最惠国待遇主義ヲ採用スルコト(本項

「グレイ」氏ノ談話ヲ機トシ本使ハ移民以外ノ本邦人ノ  
居住出入営業等ニ関シテハ我方ハ相互主義ノ下ニ自国民  
待遇ヲ必要トスルモノナル旨注意シ置ケリ)

(四)日英条約規定ノ加盟期間ハ已ニ終了セルニ付濠洲ノ加盟

次ニ濠洲ノ日英条約加盟ノ件ニ関シテハ第二回協議会ノ結  
果トシテ「グレイ」氏ヨリ左ノ通り談話アリタリ  
濠洲總理大臣ハ本件条約加盟ノ議ニ全然反対ナル訳ニハア  
ラス外務殖民両大臣ノ説キ込メル本国政府ノ意向ハ十分諒  
トスル所ナルモ同首相ニ於テ本件ヲ濠洲政府ニ轉達スルニ  
先チ予メ日本政府ヨリ左ノ四点ニ就キ「アッシュアランス」  
ヲ得ルコトヲ希望ス即チ

(一)移民問題ハ濠洲ノ最モ重ヲ置ク大問題ナルニ付日本政府  
ニ於テ日本移民ノ濠洲ニ送ラルルコトニ関シ濠洲政府ノ  
満足トスヘキ保障ヲ与ヘラルルコト(本使ハ帝國政府ニ  
於テモ此点ニ付加奈陀ニ対スル同様ノ保障ヲ濠洲ニ与  
フルノ意アルコトハ昨年提出ノ覚書ニ対シテモ明記セル  
所ナリ移民問題ニ関スル濠洲側ノ故障ハ右ニテ除去セラ  
ルヘキ筈ニアラサルカト述ヘタルニ「グレイ」氏ハ我覺  
書中右ノ点ハ濠洲首相ニ於テモ閱覽済ナルモ同首相ハ右  
ニ拘ラス尚濠洲政府ノ満足トスル保障取付ヲ希望トシテ  
申出セル次第ナル旨答ヘラレタリ)

(二)日本船舶ハ濠洲ニ於テ沿岸貿易ニ従事シ得サルコト

「グレイ」氏曰ク濠洲沿岸貿易ニ付テハ英本國ノ商船ニ対

ハ別ノ brevet ニ依ルノ外ナキ所右加盟ノ brevet ハ總  
テ subject to approval Commonwealth Legislation タ  
ルヘキコト

「グレイ」氏ハ日本政府ニ於テ以上四点ニ関シ同意ヲ表セ  
ラルルニ於テハ濠洲首相ハ此際本件ヲ本國政府ニ reco-  
mend シ得ヘシトノコトニテ即チ右四点ヲ基礎トシテ商議  
ヲ進メ得ルコトトナル次第ニ付本使ニ於テ政府ニ請訓ノ上  
何分ノ回答アリタシト希望セラレタリ前段海峽(脱)ト共  
ニ今後ノ交渉振り御回訓アリタシ

一七六 四月八日 石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛(電報)

海峽植民地医師問題並日英通商条約加入ニ関  
シ回訓ノ件

第一三〇号

貴電第九九号ニ関シ

(第一)医学博士及医学士ノ外我官立府県立医学専門學校  
及文部大臣指定ノ私立医学専門學校並陸海軍々医学卒業  
日本医師ノ海峽植民地及馬來連邦ニ於ケル開業ノ件ニ関シ  
テハ同地方ノ護謨ブランテーションノ衛生狀態改善ノ為ニ

ハ栽培地ニ勤務スル少数ノ日本人ヨリモ寧ロ多数ノ使用人則チ馬來人、印度人、支那人ニ向テ医術ヲ施スコト必要ニシテ単ニ日本人ニ向テノミ開業ストセハ殆ト本件ヲ無意味ニ終ラシムルノ憾ナキ能ハス本問題ハ日英兩國間ニ於ケル医師互認ノ約束成立以來ノ懸案ニシテ帝國政府ニ於テハ英本國等ノ場合ハ姑ク攔ギ差向キ海峡植民地及馬來連邦州ニ局限シテ提案シタル次第ナルカ前記諸学校卒業ノ日本医師ハ其學識及技術ニ於テ十分ノ資格ヲ備フルモノト認メラルルニ拘ラス開業ヲ日本人間ニ限ラントスルハ遺憾ニツキグレー氏ニ於テ折角當該植民地官憲ニ勸告中ノ趣ナルモ当方ニ於テハ出来得ル限り帝國政府多年ノ希望ヲ貫徹致度ニツキグレー氏ニ於テ再考アル様十分懇談セラレタシ

(第二) 濠洲ノ日英条約加盟ノ件ニ関シ濠洲首相ノ希望スル保障事項ノ中

(一) 移民問題ニ付帝國政府カ加奈陀ニ与ヘタルト同様ノ保障ヲ濠洲ニ与フルノ覚悟アルハ同官ニ於テモ諒悉スル所ナルニ拘ラス尚濠洲政府ノ満足トスヘキ保障ヲ求ムルヲ以テ見レハ同官ハ加奈陀ノ場合ト性質ヲ異ニスル保障ヲ必要トスルモノノ如シ果シテ然ラハ其ノ保障ノ性質如何

日本人間ノ開業認許ト云フコトモ差向キ本問題解決ノ第一着歩トシテノコトニテ素ヨリ完全ノ解決ニアラサルコトハ自分モ認ムル所ナリ就テハ今回御来示ノ次第ハ殖民大臣ヘ篤ト談話ノ上医師資格擴張方精々日本側ノ希望ニ副フ様同大臣説得ニ努ムヘシ

(二) 濠洲ノ条約加盟問題ノ件ハ濠洲首相病氣ノ為地方ニ静養中ニ付帰京ヲ待テ意見突止ムヘキカ自分ノ見ル所ヲ以テスルニ移民問題ニ付テハ同首相ニ於テ必シモ加那太ノ場合ト性質ヲ異ニスル特殊ノ保障ヲ取付ケントスル迄ノ意向ニハ之レナカルヘク畢竟日本移民ヲ送ラサルコトノ保障ヲ求ムルノ精神ニ外ナラサルヘク沿岸貿易及関税ノ最惠国待遇モ日英通商条約ニ夫々明文アリトセハ条約加盟ノ結果日濠間ニモ当然其ノ適用ヲ見ル次第ナリ只濠洲首相ノ重キヲ措クハ蓋シ赤道以南ノ独領諸島カ濠洲ノ領有トナルノ推定ノ下ニ右諸島ヲモ濠洲国法ノ所謂沿岸貿易区域内ニ入レントシ之ニ関シ予メ日本ノ納得ヲ得ントスルモノナルヘシト思考ス云々

(依テ本使ニ左スレハ日本モ其占領中ニ係ル赤道以北ノ諸島ニ関シ同様ノ措置ニ出ツヘシト述ヘタルニ「グレー」

(三) 沿岸貿易ノ件及(四) 関税ニ関スル最惠国待遇ノ件ハ日英条約第二十一条及第七条ニ夫々明文アリ濠洲カ本条約ニ加盟セル上ハ右兩件ハ前掲規定ニ依リ律セラルヘキモノト認メラルル処濠洲首相ハ之ヲ以テ不十分トシ別ニ特殊ノ保障ヲ求ムル次第ナリヤ

以上諸点ニ付至急先方ノ意向ヲ確ムル様御取計アリタシ終リニ(四) 本条約加盟カ濠洲議會ノ協賛ヲ条件トスルコトハ帝國政府ニ於テ異存ナキニ付此旨ヲ先方ニ明言セラレ差支ナシ

一七七 四月十一日

在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

海峡植民地医師問題並濠洲ノ日英通商条約加

入ニ関シ英国外相ヘ申入レノ件

第一四六号

貴電第一三〇号御訓示ノ次第篤ト「グレー」氏ニ申入レタルニ同大臣ノ答左ノ通

(一) 海峡植民地医師問題ニ関シテハ護謨ブランテーシヨンニ於テ多数ノ異人種使用ノ実況ハ今始メテ承知セルカ事情右ノ如シトセハ日本政府ノ要望ハ無理ナラスト存セラル

氏ハ夫レハ当然ノ成行ナルヘシト答ヘラレタリ) 何レ濠洲首相帰京次第其ノ意見ヲ確メ回報スヘシ外務大臣ノ希望ニ依リ貴電英訳手交シ置ケリ

一七八 四月二十一日

在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

海峡植民地医師問題並濠洲ノ日英通商条約加

入ニ関スル成行報告ノ件

第一六三号

「クルー」卿ノ求メニ依リ四月二十日往訪シタルニ「グレー」氏ヨリ引継ノ案件ニ対シ往電第一四六号(一) 海峡植民地医師資格問題ハ殖民大臣ニ於テ日本政府希望ノ次第同地總督ニ電報ノ上意見ヲ徴シツツアリ又(二) 濠洲ノ日英条約加盟問題ニ対シテハ濠洲首相漸ク全快セルモ殖民大臣ニ於テ未タ会谈ノ機ヲ得ス何レ近日会谈ノ上其ノ結果ニ依リ何分ノ回答致スヘシ不取敢兩件目下ノ成行ヲ話シ置クト語ラレタリ

一七九 五月十一日

在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

日英通商条約加入問題ニ関スル濠洲首相ノ態

度ニ付英國外相談話ノ件

第二〇八号

(五月一二日接受)

「グレー」氏ノ求メニ依リ五月十一日往訪セルニ同大臣曰ク濠洲首相過日地方ヨリ帰京ニ付五月九日来省ヲ求メ曩ニ貴大使提出ノ覚書(貴電第一三〇号英訳)ニ対シ考量ノ結果ヲ尋ネタルニ首相ハ其後日英通商条約ノ text ヲ篤ト研究シタリトノ事ニテ其云フ処ニテハ本条約加盟ニ就テハ濠洲聯邦憲法上政府ニ於テ右日英条約其物ヲモ聯邦議會ノ討議ニ掛クルノ要アル処其場合ニハ同条約ノ各条毎ニ議論統廃容易ニ纏ルヘキ見込ナキノミナラス自分ノ処見ニテモ右条約採用ノ場合ニハ其結果トシテ現行連邦法律ノ改正ヲ要スルモノ幾多有之旁々以テ本条約加盟ノ件ハ到底議會ノ協賛ヲ得ルノ見込ナキニ付本条約加盟ノ義ハ廢案トシ之ニ代フルニ日濠間ニ濠洲 Immigration Act ニ影響セサル範圍ニ於テ相互ニ最惠國待遇ヲ保障スルコトトスル旨ノ単行条約ヲ締結スルコトトシタシトノコトナリトテ右ニ付尚同首相ト会谈ノ模様ヲ告ケラレタルニ付本使ハ右最惠國待遇トハ關稅ノミナラス本邦臣民ノ入國居住營業等ニモ及フ次第ナリヤト質問シ若シ然ラストセハ元來本件条約問題提議ニ於ケ

ジテハ日本ニ対シ同様ノ承認ヲ為スノ要アルコトヲ再言セルニ濠洲首相ハ右ハ公平ノ処置ニシテ同首相モ全然異存ナキ所ナリト答ヘタル趣ヲ語ラレタリ

一八〇 五月二十五日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

日英通商条約加入ノ代リニ濠洲移民法ニ影響

セザル単行条約案提議ニ関シ請訓ノ件

第二二八号

五月二十四日「グレー」氏ニ於テ特ニ本使ヲ濠洲首相ニ引合セノ意味ニテ午餐會ヲ催サレタルカ本使退キ取リ後「ヒュウス」ニ於テ同氏最近ノ提案(往電第二〇八号)日本政府ニ「アクセプタブル」ナルニ於テハ同氏滞在中喜ンテ本使ト本件ヲ会谈シタキ旨「グレー」氏ハ申出タル趣ニテ二十五日同大臣ヨリ右ニ付談話ノ次第アリタルニ付其ノ好意ヲ謝シ來週初メ「ヒュウス」氏ト非公式会谈ヲ行フコトヲ諾シ置キタルニ付夫迄ニ前述「ヒュウス」提案ニ対スル帝國政府ノ御意向本使心得迄同訓相成タシ「グレー」氏ニ対シテハ本使一己ノ私見ニテハ「ヒュウス」提案ノ如クハ最惠國條款ハ關稅ノミニ關スヘク日本臣民ノ濠洲ニ於テ居住

ル我方ノ目的ノ大半ヲ空フスヘシ

蓋シ我方ノ考ハ濠洲ヲシテ日英条約ニ参加セシメ之ニ依リテ同洲ニ於テ本邦人ノ往來居住營業等ニ最惠國乃至國民待遇ヲ保障シ以テ此等本邦人ヲシテ現ニ受ケツツアル各種ノ制限ヲ免レシメントスルニアレハナリト述ヘタルニ「グレー」氏ハ本使ノ所言ハ尚 Hughes 氏ニ注意喚起シ置クヘシト述ヘ尚濠洲首相ノ言ニ依レハ現在ノ Immigration Act 以上ノ程度ニ濠洲ノ門戸ヲ開放スルコトハ到底同聯邦國論ノ承諾セサル所ナリトノコトナルカ自分ハ詳細ノ事ハ承知セサルモ既ニ加那太ニ於ケル日本移民ニ対シ制限ヲ日本政府ニ於テ受諾セラレタル以上濠洲ニ関シテモ日濠間ニ話合附キ得ルコトト考ヘ居タリト述ベラレタルニ付本使ハ我政府提案ノ趣旨ニ付尚同大臣ヨリ「ヒュウス」氏ノ注意喚起ヲ重テ希望シ且本問題ハ「ヒュウス」氏滞在中切メテ商議ノ基礎ニテモ纏メタキ我方ノ希望ナリト述ヘタルニ同大臣モ其ノ考ニテ兩者ノ間ニ介シテ精々尽力シ居ル次第ナリト述ヘ尚濠洲首相ヨリ濠洲占領中ノ獨領諸島ヲ沿岸貿易範圍内ニ入ルコトニ日本ノ同意方ニ関シ重テ前回同様ノ談話アリタルニ付同大臣ヨリ左スレハ赤道以北ノ分ニ関

營業ノ制限ハ依然持續セラルルコトナリ公平ノ取極ト云フヘカラサルヲ以テ我方ニ取リテハアクセプタブルノモノト思ハレスト述ヘタルニ「グレー」氏ハ右本使ノ所言ハ尤ト認ム國際間ノ協約取極ハ總テ相互主義ヲ基礎トセサルヘカラサル次第既ニ「ヒュウス」氏ニモ注意シ置ケリト云ハレタリ

一八一 五月三十日 在シドニー清水總領事宛(電報)

東洋人ニ対シ区别的待遇ヲ与フル法規電報方

ノ件

第一〇号

濠洲ノ日英条約加入ノ件ニ就キ必要アルニ付濠洲ニ於テ白人ニ比較シ東洋人ニ不利ナル区别的待遇ヲ与ヘ居ル顯著ナル法規(例ヘバ大正三年公第五一號貴信 Sugar Cultivation Act 施行細則ノ如キモノ)ニツキ其要點ヲ簡單ニ電報アレ註 大正三年公第五一號ハ日本外交文書大正三年第一冊三〇九文書

一八二 六月三日 在シドニー清水總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

東洋人ニ対スル区別の待遇ノ法規ニ関シ報告

ノ件

第一七号

貴電第一〇号ニ関シ

一、法規ニ明記シテ差別スルモノ(イ)亜細亞人ニ認メサル權利、歸化權、聯邦議員選舉權及被選舉權(ロ)亜細亞人タルタメ又ハ歸化權ナキタメニ認メサル權利、或州ニ於テ土地所有權、各州選舉權被選舉權

二、法文ニ明記セズシテ事実上亜細亞人ト差別スルモノ、聯邦ニ入国及住居(客年機密第二号拙信附屬第二及第三号)

一八三 六月十一日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

日英通商条約問題ニ関シ濠洲首相ト会谈ノ件

第二六四号

(六月十三日接受)

往電第二二八号ニ関シ濠洲首相旅行中ニテ面会延引トナリ居リシ所六月九日外務省ニ於テ面会条約問題ニ関シ懇談ヲ遂ケタリ首相ハ先以テ自分ノ最後ノ提案ニ対シ日本政府ヨリ回答ニ接セラレタリヤト尋ネタルニ付本使ハ未タ回答ニ接セサル旨ヲ答フルト共ニ首相ノ提議タル最惠國待遇ハ單

民ニ付テハ既ニ英國外務大臣ヨリモ聞及ハレタルヘキ通り日本政府ニ於テハ加奈陀ニ於ケルト同様ノ制限ヲ加フルニ躊躇セサル積リナリト注意シタル処首相ハ移民ト通常商人トヲ區別スル標準ヲ見出スコトノ困難ナルヲ述ヘタルニ依リ本使ハ此点ハ實際ニ付キ別ニ解決ノ方法ヲ講スルヲ得ヘク要スルニ首相ノ提案ニテハ濠洲ニ於ケル日本人ハ日本ニ於ケル濠洲人ト同様ノ待遇ヲ受ケサル片務的ノモノニシテ甚タ不公平ト思考スト述ヘタルニ首相ハ貴説ノ程ハ深ク之ヲ諒トスルモ前述ノ通り濠洲ノ議會政治ハ英國ヨリモ一層「デモクラチック」ニシテ自分ノ意見ノミニテハ如何トモスヘカラス政府議會ノ意見ニ顧テ説ヲ下セハ貴邦ノ希望ニ全然応諾シ得ルノ見込ハ遺憾ナカラ最少ト云ハサルヲ得ス自分ハ近日出發歸國スヘキニ付他日歸國ノ上ハ尚同僚トモ篤ト協議ノ上如何ナル程度マテ讓歩シ得ラルルヤ精々尽力スヘシト約シタリ仍テ本官ハ御歸國ノ頃ニハ我「シドニー」駐在總領事ニ於テ或ハ本問題ニ関シ本國政府ノ訓令ヲ受クルコトアルヘケレハ同總領事ヨリ何等申出ノ場合ニハ本日ノ懇談ノ続キトシテ好意的ニ同官ト本件ヲ協議セラルレハ好都合ト思考スト述ヘ首相ハ之ヲ快諾セリ

ニ関税ニ限ラルル趣意ナリヤト質問シタル所首相ハ一般ノ解釈ニ從ヒ関税ノミノコトノ積ナリトコトナリシニ付元來我方ニ於テ日濠間ニ条約關係ノ成立ヲ望ム趣旨ハ主トシテ日本人カ現ニ濠洲ニ於テ受ケツツアル營業居住旅行等ニ関スル種々不利ナル制限ヲ撤去セントスルニアリ果シテ貴説ノ如クセハ我方ノ目的ハ達セラレサル次第ニ付貴案ノ通ニテハ到底我方ニ於テ同意不可能ト思考スト私見トシテ述ヘタリ

右ニ対シ首相ハ日本ノ立場ハ自分ニ於テハ十分之ヲ諒トスルモ今日濠洲ニ於テ營業及居住ニ関シ日本人ニ全然自由ノ權利ヲ与フルコトハ現ニ法規上許ササル処ナルノミナラス又濠洲政府從來ノ國是ニモ影響ヲ及ボス重大ナル問題ナルヲ以テ同僚及議會カ果シテ之ヲ容ルルヤ甚タ覺束ナシ私見ニ依レハ日本人ノ自由旅行ニ対シテハ敢テ故障ナカルヘシ他國人ニ対スルト同様ノ待遇ヲ与フルコトハ異議ナキモ居住營業ニ至リテハ從來ヨリモ一層門戸解放主義ヲ採用スルコトハ頗ル困難ト思考スト答ヘタルニ付本使ハ濠洲ニ於テ居住營業セントスルモノハ商業ニ從事スル相當資格アル日本人ナルヲ以テ勿論労働者移民トハ同日ニ論スヘカラス移

尚本件談話中首相ハ沿岸貿易ニ関シテハ他國船舶ニ対シ之ヲ禁シ居ルニ付日本政府ニ於テモ其旨承知アリタシト述ヘ本使ノ問ニ対シ沿岸貿易ハ各其國法ニ拠ルコトトシタキ考ナリト答ヘタリ同首相ハ巴里經濟會議次第出発八月上旬本國ニ歸着ノ筈ナリ

一八四 六月十七日 石井外務大臣ヨリ  
在シドニー清水總領事宛

濠洲聯邦ノ日英通商条約加入ニ関スル件

通機密送第八号

本件ニ関シ五月二十二日附通機密送第五号ヲ以テ申進置候次第有之候処其後接受セル在英井上大使ヨリノ電報写一括茲ニ及御送付候条委細右ニテ御聞悉ノ上今後適當ノ時機ヲ見計ヒ本件進捗方可然御留意相成度此段申進候也

本信ニ添付ヲ要スルモノ如左

(一)井上大使來電第二二八号写

(二)井上大使來電第二六四号写

註 右ノ井上大使來電第二二八号及同第二六四号  
前掲ニ付省略ス

一八五 七月十三日 在シドニー清水総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

濠洲聯邦ノ日英通商条約加入ニ関スル件  
機密公第八号 (八月七日接受)

大正五年七月十三日

在シドニー

総領事 清水 精三郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

本件ニ就キ本年五月二十二日附通機密送第五号及六月十七日附通機密送第八号貴信ヲ以テ御訓示ノ趣敬承右ノ内井上大使電信第二〇八号ニ依レハ濠洲首相ハ「(前略)本条約加入ノ件ハ到底議會ノ協賛ヲ得ルノ見込ナキヲ以テ本条約加盟ノ義ハ之ヲ廢案トシ日濠間ニ濠洲 Immigration Actニ影響ヲ及ササル範圍ニ於テ最惠國待遇ヲ相互ニ保障スルコトトスル趣旨ノ單行條約ヲ締結シテ之レニ代ユルコトト致シタシ」ト英國外相ニ申出候由ニ有之右ニ對シ井上大使ノ陳述セラレタル通り前記最惠國待遇ヲ獨リ關稅ノミナラス本邦臣民ノ入國居住營業等ニモ推及ホスニアラサレハ本件條約問題ヲ提議シタル我方ノ目的ノ大半ヲ没却スルコトト

總領事 清水 精三郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

開戰以來濠洲官民カ日本ニ對シ好感ヲ表示シ來リタル儀ハ屢次ノ拙報ニ依リ御承知ノ次第ニ有之候處此好感ハ單ニ皮相ノ感情ニシテ新聞紙上又ハ公會席上等ニ表彰セララル言明ハ一片ノ辭令ニ止マル哉或ハ深ク彼等ノ胸底ニ徹底シテ我邦人ニ不利益ナル差別的法規ヲ改正シテ迄モ我國ニ応酬スルノ用意有之哉ハ實際問題ニ接觸スル迄ハ俄ニ判定難致候得共最近「クキンランド」州ニ起レル左ノ事例ノ如キハ事地方的問題ニ係ルモ這般ノ消息ヲ窺知スルノ好材料タルヘク思考致候ニ付茲ニ御參考迄供貴覽候

一、一昨年「クキンランド」州政府ト小官トノ取極ニ依リテ永住ノ日本人ニシテ砂糖蔗耕作法施行ノ当初現ニ砂糖業ニ従事シ居タル者ニハ同州政府ヨリ書取試験免除證書ヲ發給シ糖業ニ従事スルコトヲ許サルルコトトナリ  
(大正三年六月九日附公第六一号及七月二十四日附公第七五号拙信参照) 爾來同政府ハ此規約ヲ遵守シ來リタルモ同地方ノ日本人ニシテ免除証明ヲ所持セサル者モ何時ノ間ニカ私力ニ糖業ニ轉業スルモノ次第ニ増加シタル様

可相成ニ付御訓令ニ基キ飽クマテ我目的ノ貫徹ニ努力可致候然ル處六月九日英國外務省ニ於ケル井上大使ト濠洲首相ト会见ノ応酬ヲ審案スルニ首相ハ當國ノ國是タル白人濠洲政策ヨリ本邦人ヲ除外シ白人同様ノ待遇ヲ与フヘキ意思ナキモノノ如ク「他日歸國ノ上ハ同僚トモ篤ト協議ノ上如何ナル程度マテ讓歩シ得ラルルヤ精々努力スヘシ」トノ約言モ其胸裏幾何ノ誠意アリヤ結局前記ノ提案ヲ固執セントスル内心ニハ無之哉懸念ノ至リニ有之候前記提案ニ對スル帝國政府ノ意向ニ就テハ未タ御垂示ヲ得不申候處右拝承相叶候ハハ追テ首相会见ノ際多大ノ便宜可有之ト被存候首相ハ今日頃ケープタウン着ノ予定ニテ三週間前後ノ内ニハ歸着ノ運ヒニ可有之本信ニ對シテハ電信ニテ御回訓被下候ハハ好都合ニ存候右及具申候 敬具

一八六 七月十六日 在シドニー清水總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

濠洲ニ於ケル對日感情ニ關シ報告ノ件  
機密公第九号 (八月十八日接受)

大正五年七月十六日

在シドニー

子ナルカ雇主モ戰爭ノ為ニ勞働ノ手薄ノ際トテ喜ンテ之ヲ使用シ居タル處本年五月頃ヨリ例ノ Australian Workers Union ハ之レニ抗議シ日本人ノ使用ニ反對シテ同盟罷工ヲ企テタル趣ニテ同地方日本人ヨリ救済方請願アリタルヲ以テ曩ニ偶々同地方出張ノ途ニアル連邦政府閣員ニ懇談シ調停ヲ依頼シ置キタルカ此程其談話ニ依リ事ノ真情ヲ承知シタルヲ以テ本月四日同州首相代理ニ宛テ附屬第一号寫ノ如ク目下ノ勞働欠乏狀態ヲ叙シテ戰時中臨機使用繼續方ヲ交渉シタルモ遺憾乍ラ当方ノ希望ヲ貫徹シ得サリシハ附屬第二号本月十一日附同氏返信寫ノ次第ニ有之候

二、現行「クキンランド」州外國人土地賃貸制限法ハ外國人ハ書取試験及第者ニ限り五「エーカー」以上ノ土地賃貸ヲ許スコトトセルモ同州「アットルニー、ゼネラル」ニ於テ満足ト認ムル場合ハ試験ヲ免除シ得ルコトヲ規定アル處(大正四年五月十八日附機密公第一一号拙信參照) 同州在住日本人ニシテ五「エーカー」以上ノ土地賃借ヲ希望スルモノ往々有之此程モ同地方一弁護士ヨリ本邦人ノ賃借請願援助方依頼越候ニ付去ル四月二十六日附

属第三号写ノ通り同政府ニ照会致候処客月二十二日附ヲ以テ附属第四号写ノ通り謝絶致来り候

右及具報候 敬具

附 属

第一号 七月四日附「ク」州首相宛往信写

第二号 同十一日附同返信写

第三号 四月廿六日附「ク」州アトニーゼネラル宛往信写

写

第四号 六月二十二日附同返信写

註 右第一号乃至第四号ノ附属書省略

~~~~~

一八七 八月十日 石井外務大臣ヨリ
在シドニー清水総領事宛(電報)

日英通商条約加入ニ代ル単行条約案ニ関スル

濠洲首相ノ提案ニ付回訓ノ件

第一二二号

貴信機密公第八号ニ関シ帝國政府ハ移民ヲ濠洲ニ送ラントスルノ意思ナキニ付其ノ渡航ニ関シテハ加奈陀同様ノ制限ヲ辞セサルモ濠洲ヲシテ日英条約ニ加入セシメントスル重ナル理由ハ帝國臣民ノ居住及營業等ニ関シ欧米人ト均等ノ

見申込置候處着後首相ハ極メテ多忙ニテ寸暇ヲ得難キ由ハ
処幸ヒ昨二十二日当市々役所ニ於ケル歡迎晚餐会席上ニテ
立談ノ機会ヲ得且ツ随行ノ書記官ニ托モ其翌日会談致候首
相ハ未タ本件ニ関シ閣僚ト討議ノ機会ヲ得サル由ニテ何等
意見ヲ洩ラサス候得共別紙両官会见覺書相認候ニ付御参考
迄右供高寛度別紙相添右得貴意候 敬具

写送付先 珍田在英大使

(別紙)

首相会谈覚書

大正五年八月廿二日市役所晚餐会席上首相ヒユース氏ト立
談ノ際同氏ハ倫敦滞在中条約加入一条ニ関シ我井上大使ト
会见ノ事ヲ語り且ツ「日本政府ヨリ該件ニ関シ貴下ニ通信
アリタルヤ」ト尋ネラレタルニ付然リ既ニ十分ナル訓令ニ
接シ居ルニ付篤ト会谈致度御都合次第何時ニテモ本官ハ
「メルボルン」ニ御伺可致ト申立テタルニヒ氏本官ハ重要
ナル國務ニ関シ極メテ多忙ニテ該件ニ関シ閣僚ト未タ審議
ノ暇ヲ得ス併シ一二週間ノ内ニハ腹案ヲ立テ得ヘシト思惟
スルニ付然ル後会见致度追テ右ノ都合ヲ書記官ヨリ通知セ
シムヘク或ハ其頃重ネテ当市ニ出張スヘキヤニモ被存云々

待遇ヲ得セシメントスルニアルヲ以テ関稅ノミニニ関スル最
惠国待遇ノ取極ヲナサントスル濠洲首相ノ提議ハ帝國政府
ノ意志ニ副ハサルモノナリ依テ貴官ハ右ノ趣旨ヲ体シ濠洲
ヲシテ日英条約ニ加入セシムル様然ルヘク当局ト折衝セラ
レタシ

~~~~~

一八八 八月二十三日 在シドニー清水総領事ヨリ  
石井外務大臣宛

濠洲聯邦ノ日英通商条約加入ニ関スル件

機密公第一三三号

(九月廿八日接受)

大正五年八月二十三日

在シドニー

總領事 清水 精三郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

濠洲首相ハ英國出張先ヨリ本月八日帰任致候ニ付本件ニ関  
シ時機ヲ見計ヒ可成速ニ会谈致度ト存居候處本月二十一日  
当シドニー市出張数日間滞在ノ事ハ帰着前ヨリ予定公示セ  
ラレタル事ニモ有之同官ハ帰任勿々徵兵制度創設其他ノ重  
要問題輻輳致居リ多忙ヲ極ムル様子ニテ差当リ会见ヲ申込  
ミ難キ事情モ有之候ニ付シドニー出張ノ機会ヲ待チ予メ会

申サレタルニ付自分ハ本件ニ付テハ何回ニテモ「メルボル  
ン」出張ヲ辞セサルニ付御都合次第何時ニテモ御通知ヲ乞  
フ旨答ヘ置キタリ

首相書記官長会谈覚書

予テノ折合ニ依リ八月廿三日午後二時半首相書記官長「シ  
ファード」氏來訪ニツキ本官力昨夜首相ト会谈ノ事ヲ首相  
ヨリ聞キタルヤト尋ネタルニ首相多忙ニテ談話ノ暇ナク未  
タ何等ノ話ナシト云ハレタルニ付条約加入一条ノ英國ニテ  
ノ成行ハ御承知ナルヤト尋ネタルニ細大トモ承知シ居レリ  
ト云ハレタルニ付右ニ関シ昨夜会谈ノ模様ヲ告ケ何分ノ力  
添ヲ依頼シ且ツ私話トシテ本件ハ卑見ニ依レハ目下重モニ  
「センティメンタル」ノ問題ニテ戦乱以來幸ヒニ助長セラ  
レタル日濠間ノ好誼ヲ「コンソリデイト」スルヲ主眼トシ  
双互ノ實質の利害ハ差当リ格別ノ事ニアラサルヘク換言ス  
レハ日本ノ國論ハ濠洲カ此際対日好感情表章ノ証拠トシテ  
条約ニ加入スレハ大体上満足スルナラント思惟スル旨申述  
ヘタルニシファード氏申出ノ要領左ノ如シ

一、首相ハ絶エス此事ニ思フ運ラセルカ如クナルモ頗ル  
多忙ニテ現状通りニテハ健康力堪エ得ヘキヤ氣遣ハル

ル程ノ次第ニテ未タ本件審議ノ機会ヲ得サルコトと思  
ハル云々

一、國際問題ハ戦後全然改造 Recast ノ必要アルヘク  
目下日濠關係ヲ商議スルコトハ時宜ヲ得タルモノナル  
ヤ疑問ナリ云々

一、開戦以來濠洲人ノ対日感情著シク改善シタレトモ一  
部ノ人士間ニハ未タ全ク不安ノ念ヲ一掃スルヲ得サル  
模様アリ此際ニ当リ日濠關係問題議會ニ提出セラルル  
ニ至ラハ無責任ノ政客ハ政府反対ノ論旨ヲ貫カシメ  
ニ計ラスモ日濠關係上ニ不利ナル言辭ヲ弄シ從ツテ藪  
蛇ノ奇禍ヲ招クコトナキヲ保シ難カルヘク首相ノ苦心  
モ或ハ此辺ニ存スルニアラサルヤト察セラル云々

依テ本官ハ右諸項ニ付批評ヲ加エ意見ヲ交換シ重ネテ今後  
ノ力添ヲ依頼シ余談ニ移リタリシフアード氏ノ意見ハ固ヨ  
リ同氏ノ私見トシテ内話セラレタルニ過キサレトモ多少首  
相ノ意見ヲ反射シタルモノカト推察セラル

一八九 十月十日

在シドニー清水總領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

濠洲ノ日英通商条約加入ニ関連シ聯邦政情多

ル「ニューサウスウェールズ」州労働政党组員評議員ノ如  
キハ現ニ首相ヲ除名シテ其立脚地ヲ奪却セント企ツル等ノ  
大混亂ヲ生スルニ至リ強制兵役案ヲ議會ニ提出スルモ到底  
兩院ヲ通過スヘキ望ナキ形勢ヲ示スニ至リタレハ不得已九  
月十四日該問題ヲ「レファレンダム」ニ依テ決定セシムヘ  
キ法案ヲ議會ニ提出シ同月廿三日議會ヲ通過シ本月廿八日  
ヲ期シ議員選舉人ヲシテ投票セシムルコトナリタルモ首  
相ハ引続キ東奔西走目的ノ貫徹ニ尽瘁中ニテ十月中ニ入り  
テモ數回當市ニ出張シタルニ付本官ハ首相隨伴ノ書記官ヲ  
經テ会见ヲ求メタルモ多忙寸暇ヲ得サル由ニテ未タ目的ヲ  
達セサル次第ニ有之候

前記兵役問題ハ當国ニ取リテハ稀有ノ大問題ニテ朝夕發刊  
新聞紙ノ賑ハシキハ云フニ及ハス各地ニ催サルル昼夜ノ演  
説会其他ノ会合ニテ議論百出其可否ヲ討議セルコトナルカ  
偶々対日關係ニ不利ナル傾向ヲ有セル言論ヲ弄スルモノ少  
カラス從ツテ無知識階級中ニ排日の感情挑発ノ兆候ヲ示ス  
ニ至レルハ最モ遺憾ナル現象ニ有之候之レヲ例スレハ

一、強制兵役ニテ壯丁ヲ出征セシムルノ結果勞力ノ大欠  
乏ヲ招キ低賃銀労働即チ有色労働ヲ輸入スルノ止ムヲ

端ノ旨報告ノ件

機密公第一七号

(十一月十七日接受)

大正五年十月十日

在シドニー

總領事 清水 精三郎(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

本件ニ関シ濠洲連邦首相カ一二週間内ニハ腹案ヲ立テ得ヘ  
シト思惟スルニ付然ル後会见致度云々去ル八月廿二日本官  
ニ面談アリタル義ハ同月廿三日附機密公第一三号拙信中ニ  
記載致置候通りニ有之候処其後首相ハ強制兵役問題ニ昼夜  
没頭致内ニ在リテハ閣員ヲ始メ自党及反對黨議員ノ意見ヲ  
取纏ムルコトニ心血ヲ注キ外ニ向ツテ自ラ各州諸大市ニ出  
張シ公開演説ノ外自党内ノ反對論者ヲ会同シテ滿腔ノ政見  
ヲ披瀝シ反對論ノ説破ニ努力シツツアリシカ反對黨タル自  
由黨ハ概ネ首相ト意見ヲ同フセルニ拘ハラス政府党タル勞  
働黨ノ反對最モ猛烈ニシテ(追テ別信詳細報告可致)現ニ  
閣員ノ一名ハ突然辭職シ幸ニ辭職スルニ至ラサルモ強制兵  
役ニ反對セル閣員數名アリト伝エラレ各洲労働組合本支部  
ニ至リテハ概シテ大反對ノ旗幟ヲ明カニシ首相ノ選舉区タ

得サル状態ニ陥ルヘク即チ白人濠洲政策ヲ維持シ難キ  
ニ至ルヘシト云ヘルコト

一、国内ノ壯丁ヲ出征セシメ死傷者多ク歸休者少キ場合  
ニ於テ若シ外敵ノ侵襲スルコトアラハ之ヲ防禦スヘキ  
兵力ナキニ至ルヤ必セリト云ヘルコト

一、今日ノ友邦必スシモ他年ノ勁敵ニアラサルヲ保シ難  
シト云ヘルコト

右等ノ論旨ヲ骨子トシ之ニ辺幅ヲ加エ枝葉ヲ添フルニ於テ  
ハ恐ルヘキ幽霊ヲ描出シ無智識階級ヲ恐怖セシムル決シテ  
難事ニ無之況ンヤ政治論壇ニ於テハ手段ノ如何ヲ選ハス唯  
目的ノ貫徹ノミヲ期スルコト當国ノ習ヒナレハ其幣害一層  
甚シク隊ニハ歐洲出兵ノ目的ニテ召集セルコト一点ノ疑ナ  
キ今回ノ壯丁徴収ヲ以テ日本軍ノ侵入ニ備フルカ為メナリ  
ト曲解傳播スルモノアリト云フニ至リテハ滑稽ト評スルノ  
外ナキモ是等ノ妄説カ多少ニテモ傳播セラルルハ之ヲ傾聴  
恐怖スルモノアルカ為メナルヘシト被存候

右等ノ風説ハ昨今ニ至リ本官等ノ耳ニ入り来レル所ニシテ  
閭巷ノ謠言流語ニ対シテハ何等致方無之ハ勿論公開演説ニ  
関シテモ政府ハ特ニ本件ニ関シ自由討論ヲ容ルコトヲ明示

セルコトナレハ何等取締ノ途ナカルヘク尤モ友邦タルヲ指摘シ国交ヲ損傷スルコト明カナル場合ニハ戰時警戒令ニ依リ禁制ノ途アルヘキモ抽象的ニ有色労働ト云ヒ他年ノ勁敵ナト云フ丈ケニテハ何トモ致方無之而モ一般ノ聴衆ハ右等ノ言詞ヲ聴ケハ以心伝心直チニ日本ヲ想起スト云フニ至リテハ多年恐日ノ痼疾未タ癒エス事ニ触レ機ニ乗シテハ再発スルモノニ可有之差当リ何トモ施スヘキ術無之候

斯クテ前記ノ騒動モ本月末迄ニハ一応落着可致候得共之カ為メ政府党ハ縦断セラレ殊ニ労働党ノ根拠地ヲ覆サルルコトトナリ其回復者殆ント不可能ナルモノノ如ク且ツ自由党カ歩調整然首相ノ政策ヲ贊助スルニ至レルハ愛國ノ至情偶々政見ノ合致ヲ見ルニ至レル次第ナルカ如キモ其間何等歟ノ默契アルラシク思ハルル節モ有之且ツ數年前米國ヨリ誘入セラレ恐ルヘキ勢ニテ当国内ニ伝播セラレツツアルthe Industrial workers of the world ハ社会制度ノ根本的破壊ヲ以テ其目的貫徹ノ必要手段トスル信条ヲ守リ其會員數ハ未タ多大ナラサルモ巧ミニ労働組合ニ喰ヒ入り其党論ヲ左右セントスル勢ヲ示スニ至リタレハ労働党諸首領ノ驚愕一方ナラス種々弥縫策ニ心胆ヲ練リタルモ其効ヲ奏シ

居リ之レカ救済業ヲ建テ候義ハ難中ノ至難事ト被存候  
右不取敢及具報候 敬具

本信写送付先 珍田在英大使

一九〇 十二月二十七日

在シドニー清水総領事ヨリ  
本野外務大臣宛

濠洲ノ日英通商条約加入勧誘ニ関スル件

機密公第二三号

(大正六年一月廿五日接受)

大正五年十二月二十七日

在シドニー

総領事 清水 精三郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本件ニ関シテハ本年十月十日附機密第一七号拙信ヲ以テ及具報置候処該信中記載致候強制兵役「レファレンダム」ハ本年十一月十日附拙電第五十二号及十月二十二日附機密第一九号及本月四日附公第一七六号濠洲政変ニ関スル報告書等ニテ委曲得貴意候通政府提案否決セラレ「ヒウス」内閣ノ閣僚中多數ノ辞職者ヲ出シ政府党タル労働黨議員モ亦多數離反シテ一党ヲ組織シ下院議員七十五人ノ内「ヒウス」氏ノ一派ハ僅ニ十三名トナリ首相ハ一旦其職ヲ辞シ更ニ殘

四 日英通商航海条約ニ濠洲加入ノ件 一九〇

難ク漸次絶望ノ淵ニ近キツツアル觀モ有之当國政党一大革新ノ機運漸ク熟シ来リツツアルモノノ如ク看取セラレ候  
当國ノ政界ノ事情前記ノ如クナルト同時ニ条約加入ノ事ハ議會ノ協賛ヲ要スルハ御承知ノ通りナレハ此際本件ノ成功ハ差当リ之レヲ望ミ難キ様被存候ニ付当分拱手傍觀ノ外致方有之間敷ト被存候

殊ニ本官ノ得タル情報ニ依レハ首相ヒュース氏滯英中英國首相ハ(或ハ外相ノ過伝ナルヤニモ思ハル)条約加入問題ニ関シヒュース氏ニ対シ日英國交上濠洲カ日本ノ要求ニ応スルノ必要ナルコトヲ力説シ多少威圧手段ヲ用キタル由ニテヒュース氏ハ深く之ヲ憤慨シ其後ハ勉メテ首相(或ハ外相歟)トノ面会ヲ回避シタリトノ事ニ有之右情報ノ経路出所等ヨリ案スルニ強チ無稽ノ事ニアラサル様被存候

又前項ノ事項ノミニ基因スルヤ其他ニモ原因アルヤハ測知シ難ク候得共ヒュース氏ハ英國ヨリ歸リタル後チ日本嫌ノ色彩掩フヘカラサルモノアルコトニ就テハ客月二十日機密公第一五号末段ニモ記述シタル通りノ次第ニ有之出来得ヘクンハ何トカ對抗策ヲ建テ度ト焦慮致居候得共不幸ニシテ当國ニ於ケル恐日病ハ広ク國民一般ニ涉リ深ク膏盲ニ入り

黨員ヲ以テ新内閣ヲ組織シタルモ其党派ハ下院ノ最小党ニシテ反对党タル「リベラル」党三十四名ノ援助ニ頼リ纔ニ内閣ノ生命ヲ保持シ得ルコトト相成殊ニ上院ニ於テハ政府党十一人及「リベラル」党五人合計十六人ヲ以テ離反労働党十九人ニ對抗スルコトト相成「リベラル」黨員ヨリ全幅ノ協賛ヲ得ルモ上院ニテハ党派問題ニ関シテハ政府案ノ通過不可能ノ状態ニ陥リ一時雷名ヲ内外ニ轟シタル「ヒウス」氏モ「レファレンダム」失敗以来俄カニ古城落日ノ觀ヲ呈スルニ至リ申候

右ノ次第ナルヲ以テ去十一月廿九日ヨリ本月下旬ニ涉リ開會セル議會ニ於テ如何ナル政變ヲ生スヘキヤハ世人ノ注視シタル所ナリシカ下院ニ於ケル不信認動議ニ対シ政府党ハ纔カニ反对党タルリベラル黨員ノ援助ニ依リテ之ヲ否決シ上院ニ提出セル三ヶ月間政費予算案ニ対シテハ離反労働党ハ之ヲ削減シテ二ヶ月案トナシタルニ政府ハ不得已忍ンテ之レニ同意シ辛シテ六週間ノ休会ヲナシ得タル有様ニ有之候

当國ノ政界ノ事情前記ノ如クナレハ左ナキタニ反对熱ノ高キ日英通商航海条約ニ濠洲加入ノ決断ヲ此際現内閣ニ促ス

コトハ余リニ難キヲ責ムルノ嫌有之候得共本官ハ羊毛讓受ケ事件交渉ノ為メ本月二十二日メルボルン市ニ於テ濠洲首相ニ会见シタル序ヲ以テ此事ニ言及シ貴官ノ倫敦ニテ井上大使トノ会談ノ際濠洲カ日英条約其者ニ加入センコトヲ望メル我邦ノ希望ヲ全然底諾シ得ルノ見込ハ遺憾ナカラ最少ト云ハサルヲ得サルモ他日帰國ノ上ハ尚ホ同僚トモ篤ト協議ノ上如何ナル程度迄讓歩シ得ラルルヤ精々尽力スヘキ旨申出テラレタル趣ナルカ其後ノ進行振リ如何ヲ伺ヒタシト相尋ネタル処首相ハ「其当時井上大使ニ答弁シタル通り関税ニ関スル最惠国條款ノ単行条約ナレハ之ヲ締結シ得ヘキモ日英条約其者ニ加入ノ義ハ到底議會ノ協賛ヲ得難キ事情ハ其当時ニ於テモ井上大使ニ明言セル通りニ有之況ンヤ其後當國ニ於ケル政況ハ御承知ノ通りニテ一層ノ困難ヲ加エタレハ差当リ到底望ナキ義ト承知セラレタシ云々一言一句特ニ力ヲ込メテ相答ヘラレ候時恰モ「クリスマス」休暇ニ迫マリ居リ候事ト首相ハ當日殊ニ多忙ニテ面会人モ多数待受ケ居リ帝國政府ノ意向ハ既ニ井上大使ヨリ詳細説示セラレ居ル事ニモ有之且當國政況前記ノ通りナルニ依リ此際多弁ヲ避クルノ妥當ナルヲ認メ本件ニ就テハ後日更ニ申出

中議會再開ニ至ルノ間又ハ其会期中如何ナル政変ヲ見ルニ至ルヘキヤ相分リ兼候得共若シ政府党ト「リベラル」党トノ提携益順調ニ進行スルモノト仮定スレハ本件ニ就テモ一縷ノ曙光ヲ生スヘキ哉ト想像セラレサルニモ無之其理由ハ

第一 「リベラル」党ハ智識階級ヲ代表シ対日感情ノ如キモ労働党ニ比スレハ著シク良好ナルコト

第二 来年五六月頃ヲ期シ上院議員半数改選又ハ同年八九月頃下院議員総選挙ノ管ナルカ政府党及「リベラル」党ノ提携十分ニ成立シ協同シテ離反労働派ニ当ルコトトナラハ選挙場裡ニ勝利ヲ占メ兩院共多数ヲ制スルニ至ルヘキ望アルコト

右ノ予測幸ヒニ現実セラルルコトモアラハ政府ノ基礎モ相定マリ勧誘運動ヲ試ムヘキ一機会ヲ生スヘキ哉ニ被存候尚ホ本官ハ引続キ注意機会ノ到来ヲ凝視可致候  
右及報告候 敬具

本信写送付先 在英大使

附 ニュー・ジーランドノ日英通商条約ヘノ加入勧誘ノ件

ツル所アルヘシトノ一言ヲ附加シ話頭ヲ他ニ転シ申候  
濠洲首相カ関税ニ関スル最惠国條款ノ単行条約以外日英条約ニ加入スルコトヲ難シスルノ真意ハ議會ノ風向ヲ憚ル為メナルヤ又ハ首相自己ノ信念ニ基クモノナルヤ其辺ハ言証無之候得共首相ノ自論ニ於テモ居住及營業等ニ関シ本邦人ニ対シ最惠国民ノ待遇ヲ与フルノ意思ナキコトハ同官ト井上大使トノ会见録中ニモ隱見致居候様被存候該会见録ニ就キ推察スルニ首相ハ濠洲カ一旦日英条約ニ加入ノ上ハ濠洲現行法中ニ存在スルモノト加入後ノ新定法トノ別ナク居住營業等ニ関シ日英条約ニ規定セル諸權利ハ完全ニ保障セラレヘク随テ現行法中之ニ抵触スル向ハ必然無効ニ歸スルコトト可相成ト解釈致居ラルル様見受ケラレ候

此点ニ関スル帝國政府ノ御意向ニ就テハ予メ本官ヨリ伺済ノ次第(客年五月廿四日貴電第廿一号)有之候得共此点ニ関シ先方ヨリ質問アルニアラサレハ当方ヨリ進ンテ云為スヘカラサル義ニ付懇ト其儘ニ看過致居候義ニ有之候尤モ先方ニ於テ条約加入ノ誠意ヲ生スルニ至ル迄ハ此辺ノ細目ニハ考ヘ及ハサル儀ト被察候

當國政界ノ前途ヲ予測スルコトハ難中ノ難事ニテ来年二月

一九一 七月二十日 在シドニー清水總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

ニュー・ジーランドノ日英通商条約ヘノ加入

勧誘ノ件

機密公第一一号

(八月十八日接受)

大正五年七月二十日

在シドニー

外務大臣男爵 石井菊次郎殿  
總領事 清水 精三郎(印)

英領「ニュー・ジーランド」ハ帝國ト何等条約關係無之処既報ノ通り彼我ノ貿易ハ戦乱以來長足ノ進歩ヲ為シ来リ且ツ同地ハ從來濠洲同様有色人種排斥ノ政策ヲ採リ対日感情モ頗ル不良ナリシカ戦乱ニ関シ帝國ノ執リタル行動ハ俄然同地人ノ迷夢ヲ覺醒シ殊ニ我軍艦伊吹カ「ウエリントン」港ニ入り同地遠征軍運送船ヲ護衛シテ戦地ニ向ケ解纜スルノ光景ヲ目撃シタルヨリ其恩義ニ対スル感念ハ深ク彼等ノ腦裏ニ印象シ益其好感ヲ助長シタルモノノ如ク有之候此機會ニ乘シ同地領政府ニ対シ日英通商航海条約ニ加入センコトヲ勧誘セハ濠洲ニ比シ一層容易ニ成功スヘキヤモ難計ト被